

## 国連総会 HIV/AIDS ハイレベル会合 政府代表演説(仮訳)

- 議長閣下、事務総長並びに御列席の皆様、  
1981年にエイズが初めて報告されてから45年が経過し、革新的なツールの進歩により、エイズ関連死亡者数と新規感染者数は大きく減少しました。
- しかし、この成果は均一ではなく、エイズ終息までの闘いは依然として続いており、取組を加速させなければなりません。
- 特に、疫学的データに基づき、各国の鍵となる人々（key populations）を特定した上で、コミュニティ主導の取組を促進することが HIV 対策の基礎となります。
- 議長、  
日本は、長年、人間の安全保障を通じて一人ひとりの生命と尊厳を守るものとして国際保健分野を外交の柱の一つとして位置付け、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)の達成に向けて貢献してまいりました。
- エイズ対策においては、基本的人権を尊重し、いかなる偏見・差別を排除し、適切かつ必要な医療・福祉サービスを受けることを確保することが重要です。
- 日本国内では、エイズ対策の阻害要因となり得る偏見・差別の撤廃に向けて、HIV 感染症・エイズに関する理解を深め、一人ひとりの行動変容を促すべく取り組み、地域に根ざした環境で、当事者を含むコミュニティ主導の取組の促進を重視しています。
- 日本は、HIV/AIDS 対策の過程において、患者団体や市民社会との対話と協働を通じて政策や医療体制の改善を進めてきました。

この経験は、当事者の声を意思決定に反映することの重要性を示すものであり、現在のコミュニティ主導の取組の基盤となっています。

- 日本は HIV/AIDS との世界的な闘いにも尽力しています。特にグローバルファンドへの継続的な貢献を通じて、エイズを含む感染症対策を UHC に統合することを推進しつつ、持続可能かつ強靱な保健システム強化を支援しています。
- 更に、WHO 及び世界銀行と連携の上、昨年東京に UHC ナレッジハブを設立しました。同取組を通じて低・中所得国の財務・保健当局に保健財政に係る能力強化を実施し、UHC 達成に向けた取組を推進しています。
- 議長、  
国際保健を取り巻く情勢が大きく変化する中、全ての国々の間で共通の理解を構築し、強い団結と協力を育むことが不可欠です。
- 日本政府は、引き続き国際保健を重視し、貢献していくことへの決意を改めて表明いたします。
- 御清聴ありがとうございました。

(了)